



園だより 6月号

新宿区立西戸山幼稚園 令和7年5月30日発行

もうすぐチョウになるよ

園長 佐藤 淳穂

「このさなぎ、もうすぐチョウになるよ！」5歳児のAさんが言いました。大きな声に子どもたちも職員室の大人も集まってきました。「どうしてわかるの？」と聞くと、「だって色が変わってきてる。」と言うのです。よく見ると、黒い筋がうっすらと入り、アゲハチョウの翅が透けて見えているようでした。

羽化のタイミングを「もうすぐ」と推し量る観察力には驚きました。幼虫がミカンの葉を食べつくしそうになると心配し、うんちが大きくなっていくことに驚き、さなぎの殻から出てきたチョウが翅を乾かし広げていく様子を見守って…共に暮らし、時間が流れる中で、繰り返しあおむしが成長する喜びを感じてきているからこそその気付きだと思えます。



4月からの園生活は、命が躍動するにぎやかな毎日でした。子どもたちが蒔いたヒマワリの種がピンと芽を出し、畑ではスイカの花に1センチほどの丸いスイカが付きました。カマキリの卵からはたくさんの赤ちゃんが生まれ、どんぐりの木で巣作りをしていたオナガがカラスに襲われてヒナが落ちました。園のあちこちで命めぐる自然界のドラマが展開し、そこに遭遇する度に私たちの心が揺さぶられています。

今、もっとも注目しているのは、キジバトとアシダカグモです。ぶどう棚ではキジバトが巣を構えて2週間以上が経ちましたが、「親がヒナにえさを与えている」という保護者の目撃情報が入ってきています。まもなくピイピイとかわいい鳴き声が聞こえてくるかもしれません。アシダカグモが抱えている白い卵は数日前から色の変化し、灰色味がかってきています。果たして、170匹以上の赤ちゃんグモが生まれるというのは本当でしょうか。

「どうなるかな」と予想したり、「どうして？」と不思議に思ったり、「何を食べるのか」と試したり…生き物とのふれあいは科学する心の芽生えを育てています。思う通りにならないことを体験し、多様な姿や美しい色・模様に関心を動かされて絵を描く子もいます。触れただけで弱ってしまったり、育てたいのに動かなくなったりなど死と直面する場面もあります。そして、「ほら見て！」と知らせたい友達がいて一緒に感じてくれる仲間がいることに園生活の意味があります。今日はどんなわくわくと出会えるでしょう。